



# ジェントルハート通信

No.68

2025年春号

発行:NPO法人ジェントルハートプロジェクト 発行日:2025年4月15日

URL: <http://npo-ghp.or.jp> Tel. +Fax. : 045-845-3620(小森)

定価:100円(会員無料)

代表理事 小森新一郎

「基本は優しい心」

当法人の設立から20年以上の歳月が過ぎました。活動を継続する過程において、いじめ防止対策推進法の成立や子ども家庭庁の設立など、いくつかの政治的トピックスはあったものの、目まぐるしく変化する社会情勢にもかかわらず、子どもを取り巻く環境は以前にも増して過酷さに拍車がかかっているように思いますが、皆様はどのようにお感じでしょうか。

私は最近の国内外の様子を見ていると、社会全体に重苦しい閉塞感が充満しているように感じています。長期にわたって経済成長という言葉とは無縁であり、加えて日本における、子どもに関する様々な指標は国際的にも下位に停滞しています。例えば、公的支出の教育費割合はOECD36ヶ国中最下位から3番目の低さとなっており、ユニセフ子どもの幸福度ランキングの中の精神的幸福度では38カ国中37位となっています。その上貧困に関する指標も低下しており、格差容認社会の傾向が一層色濃くなっていく中であって、日々の生活に忙殺され、未来の自分の姿を思い描くことすらできず、無力感に苛まれながら日々の生活を送っている子どもたちも多いのではないかと推察しております。

昭和・平成・令和と生きてきた世代の一員として、このような社会のまま子どもたちに引き継がざるを得ない事態に対し、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

私はこのような状況を見るにつけ、為政者の本気度を感じる事が出来ません。いじめや不登校問題は言うに及ばず、先述した教育費割合の問題だけでなく、教員不足の問題や教育格差の問題、過度な競争を助長する風潮や没個性主義など、ほぼ放置状態にあるように感じます。少子化問題にとどまらず日本社会で起きている様々な事象も、現代日本の社会システムの行き着く先として、必然的に起きている現象なのではないかと思えてしまいます。

今、私がいじめ問題の解決に取り組んできた人権NPOメンバーのひとりとして懸念しているのは、今までの社会の中に少なからず存在していた“人間同士がお互いに思いやり慈しむ気持ち”がどんどん希薄になっている事です。この現象は社会全体に人権感覚の鈍化が蔓延していることの証左ではないかと思っています。

多くの大人が「無理して学校へ行かなくていい」「何かあったら大人に相談して」等の言葉を当然のように発しますが、本当に自らそれらの問題を解決しようと考えての発言なのだろうか？と疑問に思えてきます。いじめ問題発生時、対応がわからず、見て見ぬふりをし、対象となる児童生徒の背景に寄り添うことを

避ける大人が多いのではないかと容易に想像出来るからです。

子どもたちが本当に求めているのは「自らに降りかかった不条理を受け入れる寛容さの押しつけ」でも、「転校や不登校に対して求められる不本意な同意」でもありません。真に求められるのは子どもの立場になって一緒に考えてくれる、確固とした人権感覚を持った大人の関与ではないでしょうか。

私たちは活動の原点を”優しい心”に置いております。娘の香澄が遺した『優しい心が一番大切だよ、その心を持っていないあの子たちのほうがかわいそうなんだ』という言葉に対して「そんな理想論だ!」「きれいごとだ!」と言って否定的に思われる方も少なからずいらっしゃいますが、子どもの問題に取り組んでいく上で、理想論やきれいごとを語れないような社会では、明るい未来は訪れないと思います。

発育段階途上にある子どものこころの成長にとって、他者への気配りや思いやり、つまり“優しい心”はとても重要な要素であると感じています。子どもたちは大人からの強い思いが伝われば、優しさや思いやりといった心の存在をしっかりと感じられます。話す前から諦めの気持ちがあれば子どもたちは敏感に察してくるものです。

そうは言っても現実的には子どもに向き合う大人たちにも個人差があります。もし虐待行為を行っている保護者や、生徒に対して心ない言葉を平気で投げかける教員などから“優しさ”について論されても、『どの口が言ってるの?』という気持ちになるのも当然ではないでしょうか。大切な事は“正しい人権感覚を持ち、優しい心の大切さをしっかりと伝える事ができる大人”をどれだけ増やす事ができるのかがポイントになると思います。そういった前提に鑑み、私たちジェントルハートプロジェクトがその先鞭をつけて発信し続けることが何より肝要ではないかと思っています。

最後に再度香澄の遺した『優しい心が一番大切だよ』という言葉は今一度深く噛みしめ、優しい心の大切さや加害側の立場になってしまった子どもの置かれた状況に思いを巡らせつつ、全ての子どもたちが穏やかな気持ちで日々過ごすために、『私たち大人は何をすることができ、何をしなければならぬのか』を考え続けていきたいと思っています。



## 「新著出版に寄せて」

理事 小森美登里

2003年3月に法人を立ち上げ23年目となり、ひとに例えれば成人式を既に済ませていますので、社会人として様々な現場で活躍している人も多い事でしょう。

生まれたばかりで、大人の助けが無ければ生きられなかった子どもたちが成人を迎えるまでの20年の間、ひとはなんと凄まじい成長をしていたのかと驚愕するばかりです。それに比べ当法人は成長と呼べるものが見つけにくくその実感も残念ながらありません。

立ち上げ当初に掲げた『いじめ問題を解決し、一日も早く法人を解散出来るようにする』という目標は未だ達成されていませんし、今も心と体を傷付けられている子どもたちは後を絶たず、不登校は激増し、警察庁の統計を元に厚労省がまとめた小・中・高生の自殺は最新の発表では529人で、過去最多となっています。

私はいじめ対応が行政も学校も事後対応に偏っているように感じています。傷付いてしまった子どもへの対応は勿論必要ですが、傷を生まないための予防と対応が何より重要と考えるからです。

重大事態発生後、その反省から予防策の充実に目を向け具体策を策定し実を結ぶ、ということとはほぼ無いのではないのでしょうか。実はその繰り返しこそが何より重要なのだと思っています。その欠落している部分を補完する意味で、新著「いじめに対する大人の勘違い」を出版しました。タイトル通りまずは大人が今までの勘違いに気付き、子どもと一緒にこの問題を正面から捉え学ぶきっかけとなればと思っています。

子どもたちの現場で発生しているいじめは、「大人の問題」です。間違った対応は、問題をより大きくしているのです。より現場の近くにいる大人の新たな視点が子どもへの対応を変えます。その事によって子どもとの信頼関係が生まれると思います。

安心して相談できる大人の存在、それが子どもたちの生きる意欲、その源となればと期待しています。

出版を決意し、その後押しをしてくれたのは現場の先生、子どもたち、親御さんから寄せられる声です。講演で多くの学校へお伺いし、皆さんの過酷な状況、悲痛な声をそのままにしておくことは出来ないと思いき、形にして遺したいと思ったからです。いじめの研究者ではない私出来るのは、それらを要約して多くの方に届けることだと強く思いました。

娘が亡くなった直後に学校と敵対関係になってしまった私は、学校という場所、教員に嫌悪感があったのは否めません。しかし、活動をする中で学校の様々な現実を知ることとなり、学校や先生とつながることの重要性を実感した次第です。現場の先生にも是非読んで頂きたいと思っています。

以下に私の教員研修を聴講頂いた教員の皆様からの感想文を一部紹介させていただきます。

(通信への公開に了解頂いた感想文の抜粋です。)

◇ 寄り添う事も大事ですが、抜本的な解決策がありそうに思います。その上で辛い思いをしている人のトゲを抜くには親子、教員だけで無く近所の斜めの関係厚くすることが大切と思う。

◇ 人権侵害は絶対にさせないという気持ちがより強くなりました。システムの解決方法のみでなく、心の教育というか、人の気持ちを考えて行動していくような教育がもっと小さい時から必要な感じがします。やはり教育が大事なんだと思いました。我々の意識ももっと子どもたちにフォーカスしていく必要があることを改めて思いました。

◇ いじめを虐待と読み直すということは初めて聞いて、確かに程度の意識の差があるんだと学びました。

◇ 「心の傷」という新しい考え方を学びました。

◇ 教員（親）として、やはりその忙しさから「また後で」と言ってしまうことがあるので、子どもたちのその眼間（まなかい）を逃がさないようにしたいと改めて思いました。また、同じ先生方とのちょっとした会話を大事にしたいと思いました。

◇ いじめられている子どもを救う事は大切ですが、いじめをしている子どもの背景を知り救ってあげることも大切ある事を知りました。

◇ いじめの対応は初動が大切であること、被害者だけでなく加害者へも寄り添う事が大切であることを痛感しました。いざいじめに取り組むためのこちら側の準備をどうしておけばいいのか、アドバイスを頂きたいと思いました。

◇ とても考えさせられました。「加害者によりそう」は難しそうですが実践していきたいと思っています。優しさの連鎖が広がってくれるよう、私も学校教員として頑張ります。

◇ 被害者、加害者、両方に対してそれぞれの「声かけの仕方」を改めて考える機会になりました。自分のこれまでの行動を見直して、大人（自分）の正解や尺度を押しつけて話してきたのでは？と不安に思いました。これからは、まずは自分の意見は挟まずに「傾聴」することのみに重きを置きたいと思っています。

.....

こういった先生方の想いに支えられながら私の講演活動が続けられているのだとつくづく感じています。

# 加害者も救わなければ

NPO法人「ジェントルハートプロジェクト」の理事として、いじめ問題に取り組んできた小森美登里さん(67)＝横浜市＝が著書「いじめに対する大人の誤解 スクール虐待の現実」(新日本出版社・1760円)を刊行した。いじめの連鎖を止めるには、被害者だけでなく加害者も救わなければならぬ――。小森さんは著書でこう訴えている。【高橋咲子】

## NPO理事 小森美登里さんが新著

1998年、一人娘の香澄さん(当時15歳)が部活動で言葉によるいじめを受け、命を絶った。ジェントルハートプロジェクトを設立して全国の学校で講演し、教員向けに研修をしてきた。

いじめのなかには肉体的暴力を伴う例など、犯罪行為と呼ぶべきものもある。だが今回の著作では、普段目にするようないじめを取り扱った。「無視をしたりからかったり、『いじめくらいで』と言われるような行為で

も、子供たちの心は深く傷つき、生きる気力を失うと伝えたかった」

特色の一つは、副題に掲げた「スクール虐待」という言葉だ。児童虐待防止法を挙げ、「ネグレクト」「心理的虐待」などの虐待の定義が、学校内でのいじめにも当てはまると説く。研修などで話をすると、先生たちが反応してくれ、いじめ行為の理解も進むという。加害者も同時に見守ろうとする姿勢は一貫している。「被害者としての

側面を抱えている加害者も多くいる」と記し、「自分が幸せに人生を生きる



新著を手にする小森美登里さん―横浜市で

ために、誰かを傷付ける必要はない。周囲にいる大人が目を配っていかないと」と話す。

いじめが起きた時の対応も盛り込まれ、子供たちにとどのよう話を聞けばよいのか、初動調査をどのように進めるべきか具体的に言及している。自治体が設置する第三者調査委員会の問題点も挙

げており、保護者や教員らの指針ともなりそう

だ。小森さんは数年前から体調不良に悩まされ、「もう活動できないかも」と思っていたという。「でも残りの人生を考えた時、動ける時にできることはやっておこう、とふと思いました」。2024年3月に一気に書き上げ、思いを理解してくれる出版社にも出合った。奥付に記載された刊行日「12月22日」は、香澄さんの誕生日だ。

## ◆ 活動のご報告と今後の予定 ◆

日付	主催者	都道府県	都市	人数
2024/10/22	鎌ヶ谷市立東部小学校	千葉	鎌ヶ谷	130
2024/10/30	倉敷市立東陽中学校	岡山	倉敷	775
2024/11/9	市立成立学園中学校	東京	北区	200
2024/11/18	世田谷区立玉川中学校	東京	世田谷	410
2024/11/21	柏市立柏中学校	千葉	柏	540
2024/11/22	柏市立酒井根中学校	千葉	柏	780
2024/11/25	目黒区立碑小学校	東京	目黒	650
2024/11/27	金沢市立額中学校	石川	金沢	160
2024/11/29	久留米工業高等専門学校教員研修	福岡	久留米	90
2024/12/3	栃木県立高根沢高等学校	栃木	塩谷郡	450
2024/12/4	柏市立富勢中学校	千葉	柏	580
2024/12/10	岡山県立邑久高等学校	岡山	瀬戸内	116
2024/12/11	久留米工業高等専門学校	福岡	久留米	1,080
2024/12/13	佐倉市人権擁護委員研修会	千葉	佐倉	40
2024/12/17	石川県立大聖寺高等学校 教員研修	石川	加賀	17
2025/2/12	金沢学院大学付属高等学校	石川	金沢	420
2025/2/17	佐世保工業高等専門学校教員研修	長崎	佐世保	70
2025/4/11	宇都宮文星女子高等学校	栃木	宇都宮	240
2025/4/17	藤嶺学園藤沢中学校	神奈川	藤沢	110
2025/4/18	東海大学附属市原望洋高等学校	千葉	市原	360
2025/4/23	沖縄工業高等専門学校	沖縄	名護	170
2025/4/30	富里市立富里中学校	千葉	富里	750
2025/5/24	関東学院中学校	神奈川	横浜	270
2025/5/28	神奈川学園中学校	神奈川	横浜	200
2025/6/10	滋賀県初任者研修①	滋賀	野洲	210
2025/6/12	滋賀県初任者研修②	滋賀	野洲	200
2025/7/1	栃木県立高根沢高等学校	栃木	塩谷郡	180
2025/8/24	部落解放研究第53回倉吉市集会	鳥取	倉吉	500
2025/11/23	福岡県人権問題研究集会	福岡	糟屋郡	600
2025/11/26	柏市立第三中学校	千葉	柏	440
2025/12/2	柏市立風早中学校	千葉	柏	340
2025/12/5	柏市立西原中学校	千葉	柏	540